

の作用のしかたをしていることを暗示している。

最後に酸化物では松原の固体のままの実験結果と本実験の水溶液液滴の凍結実験とでは逆の変化傾向がでたがこの原因についてはまだ不明である。

6. 謝 辞

本実験は気象大学の昭和48年度卒業研究として行なわれたものである。実験を御指導いただいた駒林教授に深く感謝致します。

文 献

- Mason, B.J., 1971: The physics of cloud
 Matsubara, K., 1973: Ice-forming properties of oxides of some rare earth elements, J. Meteor. Soc. Japan, 51, 54-60.
 元木敏博, 1975: 希土類フッ化物の氷晶核化能力について, 天気, 22, 1, P15-20.



ピエール・ジョルジュ著
 野田早苗 訳

地理学の方法

白水社, 文庫クセジュ, 1975, 本文 131 p, 参考文献 5 p.

本書はパリー大学地理学研究所長の Pierre George 教授の著書『Les Méthodes de la Géographie, 1970』の全訳である。内容は序論, 地理学, 多岐な接近法をもつ科学・第一部資料源と資料・第二部地理学的研究の領域と問題点に分けられ, 第一部は資料の性質・資料の収集とその地理学的解釈の2章に分けられている。第二部は自然地理学の研究・人文地理学の研究・地域地理学の諸問題とその発展の3章に分けられ, 続いて結論になっている。更に第二部第一章は地形学・気候学における地理学的研究・水理学の研究・生物地理学の各項に分けて論述し, 同じ第二章は人口, 農業, 工業, 交通・商業, 経済, 都市の各地理学の分野について論及している。

本書の標題は, 地理学の研究方法そのものに関する論議と, 地理学者各人がもっている研究上の観点に触れ, 地理学の本質に関連する問題を含んでいる。

従来フランス地理学派は他のドイツ, イギリス, アメリカの地理学派と比較をして, 地域地理学(地誌)的傾向が強いといわれてきたが, この学派に属する人達の考え方を知らうえで本書は参考になるものと思われる。

本書の中で気候学に関連がある人々の注意をひくと思われるのは前述の第二部第一章の中で述べられている問題である。この中で人工衛星から撮った地球映像をもとにして, 大気循環を気候学的に解明する道や, それを發展させて惑星規模の天候研究が地域や地方規模の研究にとって代わるような傾向を指摘した点などであろう。

また乾燥地域, 寒冷地域のような《気候上の辺境》地帯で種々な形の農業投資を行なう上で, その収益性の算定に寄与させるために, 植生と気候因子の平均較差, あるいは一世紀ごとの較差などの統計の利用を提起している。

なお訳者は東京商大卒(1927年)国際経済学・経済地理学専攻。現在, 福岡大経済学部教授。主要著書『米・ソ比較経済論』(気象研究所海洋研究部 渡辺明)